

自分の成長を信じて

今年度の大学入学共通テストの受験会場が確定しました。

男子 岐阜医療科学大学（可児市）、

女子 中京高等学校（瑞浪市）

男女で別々の会場となりました。

昨年度までは本校が試験会場だったため、「会場（場所）が分からない」、「どうやって行けばいいのか」、「どれくらい時間がかかるのか」といった心配をすることはありませんでした。しかし、今年は何もかもが初めて、コロナ禍の受験、共通テスト元年、そして共通テストの会場変更など、不安がいっぱいの3年生です。こんな時ほど前向きに考えていきましょう。

瀬戸内寂聴さんは対談の中で、「人生には良いことも悪いことも連れだってやってくるんですね。そして良いことばかりが続くことはなく、同じように悪い状態が永久に続くこともないんです。どんなに悪いことが起きても、それはもっと良いことが起こるための布石にしかすぎないんです。」と語っています。

いよいよラストスパートです。自分がやってきたことを、そして自分を信じて前に進みましょう。何があってもあきらめなかったこの一年は、必ず皆さんを成長させてくれたはずです。そしてその努力はつきと実を結ぶはずです。

（文責 堀）

『3年の窓』

いま、12月中旬です。大学共通テストまであと1か月です。今まで、一生懸命に勉強に取り組んできましたね。そして、3年間の学習が試される本番が1か月後になります。この1か月も先生たちは全力で君たちをサポートします。うまく利用してください。

みなさんが東進ハイスクールの林修先生を知っていますね。以前、テレビで受験1か月前に受験生に送る言葉というものがありましたので、みなさんに紹介します。

『あと1か月、君たちが頑張ろうが頑張らなくても俺には関係がない。ただこれだけは言える。この1か月頑張れるか頑張れないかが人生を決める。この1か月頑張って合格する人、1か月頑張ったけど落ちる人、1か月頑張れなかったけど合格する人、1か月頑張らなかったから落ちた人の4パターンがいる。1か月頑張れた人はいい。頑張れて結果が出なくても準備不足だったといえる。問題は、1か月すら頑張れなかった人。この人たちは“俺はたった1か月間すら頑張ることができなかった人間なのか”と負い目を感じて生きていかなければならない。1か月頑張れる人は1年頑張れる、1年頑張れる人は10年頑張れる、10年頑張れる人は一生頑張れる。だからこそ、この経験を10代のうちにしておくことがとても重要だ。』

この言葉を聞いてどう感じますか？受験勉強は大学に入学するためだけにあるものではありません。この受験を経験し、学力以上に“ヒト”として成長してほしいと思います。

ただ、この1か月が受験生にとって勝負の1か月であることは間違いありません。悔いを残さない受験にしてほしいと思います。

（文責：後藤佑）

2年の窓

いよいよ3年生0学期の始まり！！受験勉強の準備はいかに！？

12月に入り、もうすぐ三年生は共通テストを迎えます。そして君たちは共通テスト1年前を迎えようとしています。進学校の2年生の3学期は3年0（ゼロ）学期と言われています。その所以は、この共通テストが1年前ということ・進学校の多くの生徒が受験勉強を始める時期ということだと思います。

さて皆さんは受験勉強と聞いてどのような学習をすることを考えますか？ひたすら赤本と呼ばれる入試問題を解くことを考えていませんか？難しい問題集を沢山購入して、沢山解くことでしょうか？

僕が考える受験勉強は、まず何よりも、これまで高校生の中に学習してきた内容を確認することが大事だと思います。家を建てる時の工程をご存知でしょうか。まず土台となる基礎工事を行い、そのあと柱を立てて、壁や屋根を設置していきます。ここで土台となる基礎がしっかりと安定していなければどうなるでしょう？せっかく良い見栄えにしようと素晴らしい壁や内装を作っても、基礎が安定していなければ崩れてしまいます。学習も同じです。基礎がわかっていなければ、参考書などの受験テクニックと言われるものなどは問題の出し方の違いで、誤答となってしまいます。どの教科についても、基礎が大事であることに変わりはありません。

皆さんは今まで模試を受験していて解答を確認したとき感じたことはありませんか？「ああ！！あの時に学んだ内容の問題だ。」「答えを見ればわかったのに」こんな声をよく聞きます。これは学んだことが結果に結びつかない非常に残念な状況です。これには知識や思考が途切れ途切れの状態、断片的な知識の状態です。まずは今までの学習をそれぞれの教科ごとに、点と点を線でつなぐ学習をしていきましょう。

この冬休み受験生始めませんか？

（文責 渡辺 完）

1年の窓

～素質は有限、努力は無限～

上記の言葉は前任校である関商工高校のバトントワリング部のスローガンです。彼女たちは毎年のように全国大会へ出場、そして金賞を受賞するという素晴らしい成績を残し続けています。練習を見させてもらった時、生徒同士が厳しく指摘しあい、時には涙を流しながら練習に励んでいました。また、練習中に教員や来客が横切ると練習を止め、大きな声で挨拶をしていました。彼女たちは部員全員が幼少期からバトンを始めたわけではありませんが、「全国大会で金賞を受賞する」という目標に向かい全力で部活動に取り組んでいました。ある初心者の子に「なんでそんなに頑張れるの？」と聞いたところ、「私は初心者で能力が高い訳ではないので、必死に練習についていくしかないし1度やり始めたことから逃げたくない」と答えてくれました。とても16歳の女の子の発言とは思ってできませんでした。

さて、みなさんは部活動や勉強に対して「自分には能力がないからできない」とか「苦手だから点数が取れなくても仕方がない」などの感情を持ってしまったことはないですか？実際、多治見高校には「やりたくない」とか「意味あるの？」などと発言する生徒は少なくありません。しかし、今自分の周りに起きている物事には本気で取り組み、最後までやり切らなければ本当の価値というものを見出すことが出来ません。

最初から出来ることだけ選んでいたら人生の幅は狭くなります。出来ないことや苦手なことから逃げることは簡単ですが、逃げずに本気で向かっていける人間こそ、本当に強い人間であると思いますし、そうなってほしいと思っています。

（文責 各務）

進路からのお知らせ

※総合型選抜（AO入試）の結果が出てきました。11月6日現在で国公立大学の合格者が3名です。

愛媛大学 1名

高知工科大学 1名

長野県立大学 1名

※今年度の「大学入学共通テスト」の本校受験者数 175名（96.7%）

